

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號四第 卷二第

論說

●雜種稅ノ分析及其整理

●奢侈ト貧困

●てがゐるごひゆゑの經濟學說三

研究

●不換紙幣流通ノ根據ニ就テ

●保險ト偶然性

●本多利明ノ經濟說三

雜錄

●英國經濟政策ノ變轉期

●貧民ノ體力ニ就イテ

●英國ノ戰爭利得稅

●本邦私出產ヲ死産

●歐洲各國ニ於ケル生活費ノ増加ニ對スル防止策

●郷土ノ經濟的研究

●所有權ノ起源

●紙幣ノ下落

●經濟學讀書會記事

●富田博士ヲ悼ム

注學博士 神戸 正雄

法學博士 河上 肇

法學博士 福田 徳三

山口高等商業學校教授 作田 莊一

法學士 小島 昌太郎

講師 本庄 榮治郎

助教授 河田 嗣郎

講師 高田 保馬

法學博士 小川 郷太郎

教授 財部 靜治

助教授 山本 美越乃

法學博士 神戸 正雄

講師 本庄 榮治郎

法學博士 河上 肇

講師 高田 保馬

法學博士 織田 萬

保險ト偶然性

法學士 小島昌太郎

緒言

「保險ノ第一義的且ツ一般的前提條件ハ、偶然性ヲ有スルモノノ存在スルコトナリ」。¹⁾ 偶然性ハ又不確定性トモ云ヒ、必然性又ハ確定性ニ對スル語ニシテ、未來ニ於ケル事實ガ豫知シ得ザル場合ニハ、其事實ハ偶然性ヲ有スト云フ。從來ノ保險論ニ於テハ、保險成立上ノ要素ニ存在スル偶然性ト、保險者ト加入者トノ保險關係ノ要素ニ存在スル偶然性トヲ區別セズ、單ニ所謂保險事件

研究 保險ト偶然性

第二卷 (第四號 八一) 五六一

ニ人從擔レホ

1) Wagner, Versicherungswesen. (Schönberg, Handbuch d. P. O. II Bd. 2) S. 365

ガ偶然性ヲ有スルコトヲ以テ、保險ノ前提條件トナシタリ。然レトモ、此ノ如キハ未タ以テ正確ナル觀察ニアラズ。本篇ニ於テハ、保險成立上ノ要素ト、保險關係ノ要素トノ各ニ於テ、如何ナルモノニ偶然性存在スルヤヲ詮索シ、據テ以テ保險ト偶然性トノ關係ヲ論ゼント欲ス。

第一 保險ノ成立上ノ要素ニ存在スル偶然性

一 慾望 事件

人ガ經濟財ヲ獲得充用スルノ必要ハ、種々ナル事情ノ下ニ生ズルモノナレドモ、特ニ或種ノ事件ノ發生ガ此必要ヲ促シタリト認ムルコトヲ得ル場合アリ。例ヘバ、火災・海難等ノ事件ガ發生シテ、生産財産ヲ損害シタル場合ニハ、之ヲ補充スルガ爲メニ、經濟財ヲ獲得シテ生産ニ充用スル必要ヲ生ジ、享樂的消費ノ用ニ充テラレタル財産ガ、火災・盜難等ノ事件ニ因リテ滅滅シタル場合ニハ、再ビ經濟財ヲ獲得シテ、之ヲ同一ノ享樂的消費ノ目的ニ充用スル必要アリ。婚姻ノ場合ニハ、婚姻費用及ヒ嫁資財産ヲ作成スルガ爲メニ、疾病ニ罹リ、負傷ヲナシタル場合ニハ、治療ノ爲メニ、金錢ガ必要トナリ、癯疾老衰ニ因リテ經濟能力ガ衰亡シタル場合ニハ、日常ノ生計ヲ維持スルガ爲メニ、生活資本ガ必要トナリ、又扶養者ガ死亡シタル場合ニハ、遺族ノ生活ノ爲メニ同シク生活資本ガ必要トナル。凡ソ是等ノ場合ニハ、右ニ述ベシガ如キ事件ノ發生ガ經濟財ヲ獲得スル必要ヲ促シタリト看做スコトヲ得ベシ。而シテ經濟財ヲ或目的ニ充用スルガ爲メニ之ヲ獲得スル必要生ズレバ、人ハ之ヲ獲得セントスル慾望、即チ經濟慾望^{モテ}ヲ起ス。故ニ此點ヨリ觀テ、

是等ノ事件ヲ欲望事件 Bedarffallト云フ²⁾

註 經濟欲望トハ食ハントナ欲シ、飲マントナ欲スト云フガ如キ欲望ニアラズシテ、カカル欲望ヲ充足スル手段即チ經濟財ヲ獲得セントスル欲望ナリ。吾人が經濟欲望ト云フ所ノモノニ對シ、Gohbiハ wirtschaftliche Bedürfnisト謂ヒManes等ハ Vermögensbedarfト謂ヘリ³⁾。尙、經濟欲望ノ概念ニ就イテハ、河上博士、經濟學原論上卷(明治四十年再版)第一章第二節、及ヒ同博士ノ論文「經濟財ノ概念ヲ論ズ」ニ詳論アリ。

火災・海難・盜難・疾病・負傷・老衰・死亡等ノ事件ノ發生ニヨリテ、經濟財ヲ獲得充用スル必要起リ、從ツテ經濟欲望生ジタル場合ニハ之ヲ充足セザルベカラズト雖モ、其時ニ臨ンデ、所要ノ經濟財ヲ獲得スルニ足ル丈クノ資力ヲ作ルコト概ネ困難ナリ。故ニ未來ニ於テカカル欲望事件ガ發生スルコトアルベキヲ想像スレバ、豫メ資力ヲ用意シテ其必要トナルベキ經濟財ヲ獲得シ得ルノ準備ヲナサザルベカラズ。而シテ資力ヲ用意スルト云フハ、現在ニ獲得シタル經濟財ヲ盡ク充用スルコトナクシテ、其幾分ヲ未來ノ準備トシテ蓄積スルコトナリ。

然ルニ人ガ其獲得シタル經濟財ヲ未來ノ生産・消費ノ準備ニ充用スルニ當リテハ、必ズ、之ヲ現在ノ生産・消費ニ充用スルト、將タ、暫ク之ヲ蓄積シテ未來ノ生産・消費ノ準備ニ充用スルト、就レガ經濟主義ニ適合スルヤヲ考慮シテ、之ヲ決ス。而シテ未來ノ生産・消費ノ準備ノ爲メニ經濟財ヲ蓄積スル方法トシテ、先ツ何人モ思ヒ付クハ貯蓄ナリ。貯蓄トハ、獲得シタル經濟財ヲ盡ク現在ノ生産・消費ニ充用セズシテ、其幾分ヲ剩シ、之ヲ時ト共ニ、自己ノ經濟ニ於テ蓄積保存スル方法ナリ。故ニ此方法ハ、又單獨貯蓄若シクハ單純貯蓄ト稱セラル。未來ニ於テ、生産又ハ消費ニ經濟財ヲ充用スル必要ガ、確定的ニ且ツ確定時期ニ起ルコト明ニシテ、又其時期迄ニ必要量額ノ

2) Hupka, Der Begriff des Versicherungsvertrags. (Goldschmidt, Zeitschr. f. H. u. K. 1910) S. 586. 參照: 尙Manes, Versicherungswesen, 2. Aufl. (Leipzig 1913) S. 3, 10, 129. 其他ニモ此語アリ。
3) 本誌第二卷第二號、二五一頁、二五四頁、及ヒ二五九頁參照
4) 京都法學會雜誌第五卷第十一號

經濟財ヲ準備トシテ餘剩シ得ルナラバ、此ノ單純貯蓄ノ方法ハ最モ適當ナリ。然ルニ、或事件ガ發生スレバ、之ニ伴ヒテ生産消費ニ經濟財ヲ充用スル必要アリト云フ關係ダケハ明ナリトスルモ、其事件ガ未來ニ於テ發生スルヤ否ヤ不確定ナルカ、又ハ譬ヘ其發生ハ確定ナルモ發生ノ時點ガ不確定ナルトキハ、從ツテ又、之ガ爲メニ經濟財ヲ生産消費ニ充用スルノ必要モ實際ニ生ズルヤ否ヤ、又ハ何時ニ生ズルヤ、及ヒ其必要トナル量額ガ幾許ナリヤハ總テ不明ナリ。從ツテ單純貯蓄ノ方法ハ是等ノ場合ニ對スル準備トシテハ不適當ナリト云バザルベカラズ。蓋シ是等ノ事件ガ遂ニ發生セザルカ、又ハ發生スルモ、之ガ爲メニ必要トナル經濟財ノ量額ガ、蓄積シタル量額ニ比シテ少ナクレバ、其全額又ハ差額ハ、之ヲ蓄積セズシテ、既ニ生産又ハ消費ニ充用シタル方、效果大ナルベク、又之ニ反シ、是等ノ事件ガ意外ニ急速ニ發生シテ、蓄積額ガ生産又ハ消費ニ充用スルニ足ラザルナラバ、折角ノ蓄積モ殆ト其效果ヲ奏セザレバナリ。故ニ偶然性ヲ有スル事件即チ偶發の事件ノ發生ニ伴ヒテ、生産又ハ消費ニ經濟財ヲ充用スル必要アル場合ニ對スル準備トシテハ、單純貯蓄ノ方法ハ、不完全ニシテ且ツ經濟主義ニ適合セズ。別ニ完全適當ナル方法ニヨラサルベカラズ。此目的ニ對シ最モ適當ナル方法ガ保險ナリ。

二 欲望事件ト偶然性

保險ハ、一ノ經濟主體ガ自己ノ經濟ニ於テ、單獨ニ經濟財ヲ蓄積スル方法ニアラズシテ、多數ノ經濟主體ガ相寄リテ、各自ノ經濟ノ外ニ、別ニ一ノ經濟ヲ作り、各自ノ經濟ニ於テ餘剩トナシタル經濟財ヲ、一定ノ標準ニ從イテ臚出シ、之ヲ蓄積シ、偶然性ヲ有スル一定ノ事件ガ發生シテ、

經濟財ヲ獲得充用スル必要ノ起リ、經濟欲望ノ生ジタル場合ニ、此蓄積ニヨリテ之ヲ充足スル方法ナリ。サレバ、保險ハ未來ニ於ケル經濟欲望ヲ充足スルガ爲メノ、特殊ノ準備方法ナリト云フコトヲ得ベシ。^(電)

註 偶發的欲望充足 ハ、此ノ經濟欲望ノ充足ト云フコトヲ出發點トシテ、保險ヲ說明セントスルモノニシテ、吾人モ亦、經濟欲望ト云フ概念ヲ出發點トスルトキハ、總テノ保險ニ通ジテ、能ク之ヲ統一的ニ説明スルコトヲ得ベシト信ズルガ故ニ、保險ノ基礎概念ノ一トシテ經濟欲望ヲ擧グ。

偶發的事件ニ關聯シテ生ズル經濟欲望ヲ充足スル準備トシテ、保險ガ最モ適當ナルハ、其準備ヲナスニ、特殊ノ方法ヲ用ユルニ由ルナリ。其特殊ノ方法トハ、ふゆる世ノ謂ヒシガ如ク、偶然ヲ利用シテ偶然ヲ除ク方法ナリ。⁽¹⁾ 即チ特定ノ一人ヨリ見レバ、未來ニ於テ、或事件ガ彼ニ就キテ發生スルヤ否ヤ、又ハ如何ナル時ニ之ガ發生スルヤハ、全ク偶然ニシテ豫知スルコトヲ得ズト雖モ、之ヲ社會ノ大多數ノ人ヲ一團トシテ觀察スレバ、此一團ノ中ニ於テ、一定期間内ニ生ズル事件ノ發生回數、又ハ其發生ノ時間的配列狀態ハ、統計ト推理トニヨリテ、之ヲ豫知スルコトヲ得、從ツテ、特定ノ一人ニ存在セシ偶然性ハ一團ノ多數人ノ中ニアリテ消滅スルコトトナル。故ニ、未來ニ於テ、偶發的事件ニ關聯シテ、經濟欲望ノ生ズル見込アルモノガ、多數ニ結合シテ、一ノ團體ヲ作ルトキハ、其團體ニ於テ發生スル事件ノ回數、又ハ其發生ノ時間的配列狀態モ豫知スルコトヲ得、從ツテ之ニ關聯シテ生ズル經濟欲望ノ量額モ略豫定スルコトヲ得ルガ故ニ、各團員ヨリ釀出スル經濟財ノ量額ノ合計ガ、其團體ニ於テ、實際必要トナル經濟財ノ總量額ト、同一トナル方針ニヨリテ、各一人ノ釀出額ヲ算定シ之ヲ徵收シ之ヲ積立テ、各人ノ經濟欲望ヲ

5) 本誌二卷二號二五一頁以下參照

6) Hülse, Versicherung und Wirtschaft. (Conrad, Jahrb. f. N. u. S. März 1915) S. 320.

充足スル準備ヲナストキハ、各人ハ無用ノ犠牲ヲナスコトナクシテ、而モ何時欲望事件ガ發生スルモ、確實ニ經濟欲望ヲ充足シ得ルノ安心ヲ得ベク、又實際、事件ガ發生シテ經濟欲望ノ生ジタル場合ニハ確實ニ之ヲ充足スルコトヲ得ベシ。保險ハ、先ツ大體此方法ニヨリテ、多數人が躰出ヲナシ、之ヲ積立テテ、未來ニ生ズベキ經濟欲望ヲ充足スル準備ヲナスモノナリ。故ニ保險ハ、欲望事件ノ發生ガ偶然性ヲ有スル場合ニ、之ニ對スル準備トシテ、最モ適當ニシテ且ツ、最モ好ク經濟主義ニ適フモノナリ。

右ニ述ブルガ如ク、欲望事件ノ發生ガ偶然性ヲ有スルトキハ、之ニ對スル準備トシテ單純貯蓄ハ不適當ナルガ故ニ、之ニ代ル準備方法トシテ成立シタルモノガ保險ナリ。故ニ保險成立上ノ前提條件ハ、欲望事件ガ偶然性ヲ有スルコトナリ。蓋シ、欲望事件ガ偶然性ヲ有セズ、其發生、發生時期及發生シタル場合ニ必要トナル經濟財ノ量額ガ確定ナルトキハ、之ニ對スル準備トシテ單純貯蓄ノ方法ガ最モ適當ニシテ、特ニ保險ト云フ複雑ナル方法ニ由ルヲ要セザレバナリ。

第二 保險關係ノ要素ニ存在スル偶然性

一 保險關係

保險ニ於ケル躰出ヲ保險料ト云ヒ、事件ノ發生シタル場合ニ、此ノ躰出ノ蓄積ヨリナス給付ヲ保險金ト云フ。躰出ノ蓄積ハ、未來ニ於ケル經濟欲望ヲ充足スル目的ヲ以テ作ラレタルモノナルガ故ニ、準備財産ニシテ、且ツ、多數者ノ經濟欲望ノ充足ニ、共通の二用キラルルモノナルカ

故ニ、共通準備財産ナリ。而シテ、保險ヲ實行スルニ當リテハ、多數人ヲ集合シテ一ノ團體ヲ作り、彼等ヨリ保險料ヲ徵收シ、共通準備財産ヲ作リテ之ヲ保管シ、事件ノ發生シタル場合ニ、保險金ノ給付ヲナス等ノ事務ヲ管掌スルモノアリ。此役目ヲ司ルモノヲ保險者ト云フ。而シテ此團體ヲ保險團體ト云ヒ、此共通準備財産ヲ保險積立金ト云ヒ、此團體ニ集ル者ヲ保險加入者又ハ單ニ加入者ト云フ。故ニ、保險ニアリテハ、保險者ト加入者ト對立シ、保險者ハ加入者ヨリ保險料ヲ徵收シ、加入者又ハ加入者ノ庇護スル第三者ニ、欲望事件ガ發生シタル場合ニ、保險金ヲ給付シテ、其經濟欲望ヲ充足セシムルノ關係ニ立ツ。此關係ヲ保險關係ト云フ。

註 法律上ニ於テハ、保險者ノ積立テタル財産ハ、保險者ノ專有財産ニシテ、加入者ノ共有財産ニアラズ。又保險者ハ自己ノ計算ニ於テ、給付ヲナスノ義務ヲ引受クルモノニシテ、單ニ加入者ノ共通準備財産ヲ管理スルモノニアラズ。加入者ハ法律上ニ於テハ財産保險ノ場合ニハ之ヲ被保險者ト云ヒ、生命保險ノ場合ニハ之ヲ保險契約者ト云フ。

欲望事件ハ加入者ノ側ニアリテ重要ナル意義ヲ有スルモノニシテ、且ツ欲望事件ニ偶然性ノ存在スルコトハ保險ノ成立上ノ前提條件ナリ。然レドモ、保險者ノ側ニアリテハ、欲望事件ハ何等ノ意義ヲ有セズ、從ツテ保險者ト加入者トノ保險關係ニ於テハ、欲望事件ノ偶然性ハ其儘ノ形チニ於テ存在セズ。故ニ保險關係ニ於ケル偶然性トシテハ、欲望事件ノ偶然性ヲ舉示スルコトヲ得ズ。別ニ、保險關係ニ於テ偶然性ヲ有スルモノヲ舉示セザルベカラズ。吾人ハ保險關係ヲ、法律關係ト經濟關係トノ二方面ヨリ觀察シ、其各關係ノ要素ニ存在スル偶然性ヲ説明スベシ。但シ、之ニ至ルニ先ダテ行論ノ順序トシテ、欲望事件ト保險事件トノ關係、及ヒ、保險事件ト偶然性トノ關係ニ論及セザルベカラズ。

二 欲望事件ト保險事件

保險者ト加入者トノ法律關係ハ、任意保險ノ場合ニ於テハ、契約ニヨリテ定メラレタル私法關係ニシテ、強制保險ノ場合ニ於テハ、直接ニ法規ニヨリテ定メラレタル公法關係ナリ。此法律關係ニ於テハ、常ニ一定事件ノ發生シタル場合、又ハ一定時日ノ到來シタル場合ニ、保險者ハ給付ヲナスベキコトヲ規定ス。此ノ、法律關係ニ於テ、保險者ガ給付ヲナスベキ場合トシテ規定サレタル事件又ハ時日ヲ保險事件 *Versicherungsfall* ト云フ。抑モ、保險者ノ義務ハ保險契約ニヨリテ生ズルモノナレドモ、保險契約ニヨリテハ、保險者ハ單ニ保險事件ノ發生シタル場合ニ保險金ヲ支拂フト云フ義務ヲ負フノミニシテ、未ダ現實ニ保險金ヲ支拂フ義務ヲ負フモノニアラズ。保險事件ガ發生シテ、初メテ、現實ニ之ヲ負擔スルナリ。故ニ保險事件ハ保險者ノ給付義務ヲ現實ニ決定スルモノナリト云フコトヲ得ベシ。まあねすハ此保險事件ト前述ノ欲望事件トヲ混同シ、且ツ保險事件ハ必ズ偶然性ヲ有ストナシ、保險關係ニ於テ偶然性ヲ有スルモノハ此保險事件ナリトナセリ。⁷⁾ 然レドモ、まあねすノ觀察ハ甚ダ不正確ナリ。蓋シ、(一) 保險事件ハ必ズシモ欲望事件ト一致セズ、又(二) 保險事件ハ必ズシモ偶然性ヲ有セザレバナリ。吾人ハ先ヅ、欲望事件ト保險事件トノ關係ヲ論ジ、次デ、保險事件ノ必ズシモ偶然性ヲ有セザルコトヲ説明スベシ。

保險ハ加入者ニ欲望事件ガ發生シテ、經濟欲望ヲ生ジタル場合ニ、此欲望ヲ確實ニ充足スルコトヲ目的トス。故ニ保險者ハ加入者ニ欲望事件ガ發生シタル場合ニ、加入者ガ獲ント欲スル所ノ經濟財ヲ給付スルヲ以テ、最モ自然的ナル方法トナス。故ニ疾病・災害保險及ビ硝子保險ニアリテ

7) Manes, 前掲書 S. 9, 12, 129.

ハ醫藥ヲ給シ治療ヲ與ヘ又ハ硝子ヲ給付ス。然レドモ現時ノ經濟組織ニ於テハ、如何ナル經濟財モ貨幣ニヨリテ之ヲ獲得スルコト容易ナルガ故ニ、一般ニ、保險ニ於テハ貨幣ヲ給付シテ、之ニヨリテ加入者ヲシテ其經濟欲望ヲ充足スルコトヲ得シム。コレ故ニ保險者ノ給付ヲ一般ニ保險金ト云フコト前ニ述ベタリ、而シテ此保險金ハ欲望事件ノ發生シタル際ニ、給付スルヲ以テ最モ能ク其必要ニ應ズルヲ得ルナリ。故ニ欲望事件ノ發生ガ明確ニシテ、之ヲ以テ保險者ノ給付義務ヲ決定スルモノトナスモ、當事者間ニ爭ヲ生ズルノ恐ナキトキハ、此ノ欲望事件ヲソノ儘保險事件トシテ契約ニ掲ゲ、其發生ニ際シテ保險金ノ支拂ヲナスベキナリ。然レドモ欲望事件ノ發生ガ不明確ニシテ、從ツテ之ヲ以テ保險者ノ給付義務ヲ決定スルモノトナサバ、當事者間ニ爭ヲ生ズル恐アルトキハ、別ニ爭ヲ生ズル恐ナキ方法ニヨリテ之ヲ決定スルコトトナサザルベカラズ。彼ノ老年保險ハ元來、老衰シテ經濟能力ノ衰退シタル場合ニ、生活資本ヲ獲ントスル經濟欲望ヲ充足スルコトヲ目的トナスモノナレドモ、老衰ト云フコトハ何ツレノ時ニ始マリタルカ、明確ニ之ヲ認知シ難キガ故ニ老衰ト云フコトヲ以テ、保險金ノ支拂ヲ決定スル事件トナスコトヲ得ズ、故ニ凡ソ其人ガ老衰スベシト思ハルル時期ノ中ノ、一定時日ノ到來ヲ以テ、保險金ノ支拂ヲ決定スル事件即チ保險事件ト定ム。カクテ、老年保險ニ於テハ、保險事件ハ欲望事件ト一致セザルコトトナレドモ、而モ保險事件ノ發生ニ際シテ保險金ヲ支拂ヒテ能ク其經濟欲望ヲ充足スルコトヲ得ルナリ。又、彼ノ死亡保險ニアリテハ、概シテ扶養者ガ遺族ニ生活資本ヲ遺ス目的ヲ以テ加入スルモノナレドモ、遺族ニ於テ生活資本ヲ獲ントスル欲望ハ、必ズシモ、扶養者ノ死亡ト同時ニ生ズ

ルモノニアジズ。遺族ハ扶養者ノ死亡後尙當分ノ間生活ニ事缺カザルコトアルベシ。故ニ此保險ガ遺族ノ生活資本ノ必要ヲ充スコトヲ目的トスル以上ハ、其必要ノ生ジタルノ時ニ於テ、保險金ヲ支拂フヲ以テ事ノ自然ニ合スルモノナリ。然レドモ、遺族ニ生活資本ノ必要ヲ生ズル事情ハ、甚タ不明確ニシテ之ヲ以テ保險事件トナスコトヲ得ズ。然ルニ、死亡ト云フ事件ハ明確ニシテ、之ヲ以テ保險金ノ支拂ヲ決定スルモノトナスモ當事者間ニ爭ヲ生ズル恐ナク、且ツ扶養者ノ死亡ハ、遺族ガ生活資本ヲ獲ントスル欲望ヲ起ス原因ノ中最モ主要ナルモノナルガ故ニ、之ヲ以テ保險事件トナスナリ。サレバ、遺族ノ生活資本ヲ作ランガ爲メニ、終身保險契約ガ締結セラレタル場合ニ於テハ、保險事件ハ欲望事件ト一致セザル結果ヲ生ズベシト雖モ、而モ保險事件ノ發生ニ際シテ、保險金ノ支拂ヲナシテ、能ク遺族ノ經濟欲望(生活資本ヲ獲ントスル欲望)ヲ充足スルコトヲ得ルナリ。但シ死亡保險ニアリテモ、埋葬費保險・墓碑保險等ノ如キニアリテハ、保險事件ハ欲望事件ト一致スルナリ。

右ニ述ベタル所ハ、保險實行ノ手續上ヨリ、保險事件ト欲望事件トガ一致セザル場合ナルガ、此ニ又、保險事業經營上ノ理由ニヨリ此二者ノ不一致ヲ生ズル場合アリ、即チ學資保險及ヒ嫁資保險等ニアリテハ、本來被保險者ガ就學又ハ婚姻ヲナスニ就イテ要スル經濟財ヲ獲ンガ爲メニ之ニ加入スルモノナリ。而シテ就學婚姻ノ如キ事件ハ、其發生ノ狀態明確ナルガ故ニ、之ニ由リテ保險金ノ支拂ヲ決定スルモ何等ノ不都合ナシ。故ニ學資保險嫁資保險ニアリテハ、就學婚姻ヲナサバ保險金ヲ支拂フベク、然ラザレバ之ヲ支拂ハズトナスヲ以テ、本來ノ目的ニ添フ所以ナリ。

然レドモ就學婚姻ノ如キハ、例令、其當人ガ之ヲナスニ適スル時ニ於テ生存スルモ、家庭上社會上其他種々ナル事情ニヨリテ、必ズシモ、就學婚姻ヲナシ得ルモノニアラズ。故ニ就學婚姻ヲナサザレバ、保險金ヲ支拂ハズトセバ、何人モ躊躇シテ之ニ加入セザルベク、從ツテ此種ノ必要ナル保險モ社會ニ成立スルヲ得ザルコトトナル。故ニ、今日ノ學資保險嫁資保險ニ於テハ、就學婚姻ト云フ欲望事件トハ別ニ、然シナガラ之ニ近似シタル或時日ノ到來ヲ以テ、保險事件トナシ保險金ノ支拂ヲナスナリ。サレバ此場合ニ於テモ、保險事件ノ發生ニ際シテ、保險金ノ支拂ヲナシテ、而モ能ク當事者ノ經濟欲望ヲ充足スルコトヲ得ルナリ。

時トシテハ、保險事件ガ發生シ、從ツテ保險金ノ支拂ヲナスモ、之ヲ受領シタル加入者ニ於テ、保險事件ノ發生ニ際シテモ、又其近似ノ時ニ於テモ、此保險金ヲ充用スベキ何等ノ必要ノナキコトアリ、換言スレバ、何等實質上ノ經濟欲望ナクシテ保險金ヲ受領スルコトアリ。故ニ或ハ、保險ハ經濟欲望ノ充足ヲ目的トスルモノナリト云フハ當ラズト批難スルモノアラム。然レドモ、保險ハ未來ニ對スル準備ナルガ故ニ、其加入ノ當時ニ於テハ、保險事件ノ發生シタル場合又ハ之ト近似シタル時期ニ、經濟財ヲ或目的ニ充用スル必要アルベシト豫想シタルニ拘ラズ、其後ノ事情ノ變化ニヨリ、保險事件ノ發生スル場合ニハ既ニ其必要ナクナリ、從ツテ何等ノ經濟欲望ヲ生セザルニ至ルコトアルハ、保險ガ未來ニ對スル準備タル性質上、免レ難キ所ニシテ、偶々カカル事實アレバトテ、保險ハ經濟欲望ノ充足ヲ目的トスルモノナリト云フコトヲ否定スルコト能ハザルナリ。若シ果シテ始メヨリ何等實質上ノ經濟欲望ガ生ゼザルコトヲ知りテ、保險ニ加入スルモノ

アラバ、彼ハ保險ヲ轉用シテ偶然ノ利得ヲ獲シテトナシタルナリ。昔ハ、賭博富籤ヲナスト同一ノ意思ヨリ、偶然ノ利得ヲ獲シテガ爲メ、海上保險・生命保險等ニ加入シタルモノアリタリ。是等ハ保險ヲ本來ノ目的以外ニ轉用シタルモノニシテ、之ヲ以テ、保險ノ本質ハ賭博富籤ナリト云フコト能ハザルベシ。之ト同シク、偶々何等實質上ノ經濟欲望生ズル見込ナクシテ、保險ニ加入スルモノアルモ、此理由ヲ以テハ、保險ハ經濟欲望ノ充足ヲ目的トスルモノナリト云フ、其本質ニ關スル説明ヲ覆スコト能ハザルナリ。

三 保險事件ト偶然性

保險事件ガ欲望事件ト一致スル保險ニアリテハ、欲望事件ニ本來偶然性存在スルガ故ニ、保險事件ニモ亦偶然性存在スルコト明ナリ。例ヘバ、火災・海上・疾病・災害保險等ノ場合ノ如キ是ナリ。

保險事件ガ欲望事件ト一致セザル場合ニ、保險事件ニ偶然性存在スルヤ否ヤハ、場合ヲ分ツテ觀察セザルベカラズ。保險事件ガ欲望事件ト一致セザル第一ノ場合ハ、特定人ノ死亡、又ハ一定時日ニ於ケル生存ヲ以テ保險事件トナシタル場合ニシテ、其第二ノ場合ハ、單ニ一定時日ノ到來ヲ以テ保險事件トナシタル場合ナリ、詳言スレバ被保險者ガ一定ノ時日ニ生存スルト否トヲ問ハズ、其時日ノ到來ヲ以テ保險金ノ支拂ヲナスト定メタル場合ナリ。

第一ノ場合、即チ特定人ノ死亡又ハ其人ノ一定時日ニ於ケル生存ヲ以テ、保險事件トナシタル場合ニ於テハ、保險事件ハ欲望事件ト一致セザレドモ、尙、特定人ノ死亡ノ時點又ハ一定時日ニ於ケル生存ト云フコトハ不確定ナルガ故ニ、保險事件ハヤハリ偶然性ヲ有ス。此コトハ普通ノ生存保

險、死亡保險ノ場合ニ之レアリ。

然ルニ第二ノ場合、即チ單ニ一定時日ノ到來ヲ以テ、保險事件トナシタル場合ニ於テハ、保險事件ニ偶然性存在セズ。而シテ、斯ル場合ハ、所謂確定日拂生命保險 *Versicherung mit festem Auszahlungstermin* ニ於テ其例ヲ見ル。此保險ニアリテハ、保險金ハ一定ノ時日ニ拂渡サレ、其時日ニ被保險者ガ生存スルト否トヲ問ハズ、又保險料ハ保險契約者ノ生存期間内、但シ保險金拂渡ノ時期迄ヲ限度トシテ支拂ハルモノナリ。而シテ保險契約者ト被保險者トハ別人ナルヲ通例トス。斯ノ如ク、此ノ保險ニアリテハ特定人ノ生死ト無關係ニ、單ニ一定時日ノ到來ヲ以テ保險事件トナスガ故ニ、保險事件ニハ全ク偶然性存在セズ。

右ニ述ブルガ如ク、保險事件ニハ偶然性存在スルコトアリ、存在セザルコトアリ。然ルニ、其あねす等一般ノ學者ガ、保險事件ニハ必ず偶然性存在ストナシ、偶然性ノ存在スルハ保險事件ニ限ルガ如キ説明ヲナスハ、少クトモ、此確定日拂生命保險ノ場合ヲ見逃シタルモノニシテ、其觀察範圍狹ク、從ツテ保險ノ統一的説明トシテ不完全ナリト云ハザルベカラズ。

えいれんべるぐハ、保險契約ノ特徴ハ、保險者ノ給付ニ偶然性ノ存在スルコトナリトナセリ。即チ保險者ノ給付ハ實際之ヲナスコトアリヤ否ヤ (o) ガ不確定ナルカ、又ハ何ゾレノ時ニ給付ヲナスベキカ (wann) ガ不確定ナルカ、又ハ幾許額ヲ給付スベキカ (wieviel) ガ不確定ナリト云フコトヲ以テ、保險ノ法律關係ニ於クル特徴トナスナリ。保險者ノ給付ノ偶然性ヲ以テ、保險ノ法律關係ニ於ケル特徴トナスガ爲メニハ、保險者ノ給付ハ必ず偶然性ヲ有スルモノナリト前提セ

s) Ehrenberg, Begriff, juristisch. (Versicherungs-Lexikou) S. 210.

ザルベカラズ。然ルニ前述ノ確定日拂生命保險ニ於テハ、保險者ノ給付ノ事實・時期・量額ノ孰レニモ偶然性存在セズ。故ニ保險者ノ給付ノ偶然性ヲ以テ保險ノ法律關係ニ於ケル特徴トナスコトヲ得ズ。又保險ノ法律關係ニ於テ偶然性ヲ有スルモノハ、保險者ノ給付ニ限ルトナスコトヲ得ズ。

四 保險ノ法律關係ノ要素ニ存在スル偶然性

保險ノ法律關係ニ於テハ、保險者又ハ加入者ノ權利義務ノ發生消滅ニ影響ヲ及ボス事件ニ、偶然性ノ存在スルコトガ重要義ヲ有スルナリ。

(一) 保險者ノ給付義務ヲ現實ニ發生セシムル事件、即チ保險事件ニハ、偶然性存在スルコトアリ又存在セザルコトアルハ既ニ見タル所ナリ。

(二) 保險金ヲ一時ニ全部支拂フ保險ニアリテハ、保險者ハ保險事件ノ發生シタル場合ニ全部ノ給付ヲナスガ故ニ、保險者ノ給付義務ハ之ニヨリテ全ク消滅ス。然ルニ保險金ヲ數回ニ亘リテ支拂フ保險即チ年金保險ニアリテハ、保險者ハ保險事件ノ發生シタル場合ニ、第一回ノ年金ヲ支拂フノミニシテ、其給付義務ハ未タ之ニヨリテ消滅セズ、尙繼續シテ存在スルナリ。而シテ年金保險ガ定期年金保險ナル場合ニハ、保險者ノ給付義務ハ被保險者ノ生死ニ拘ハラズ一定ノ期間必ズ繼續シ、終身年金保險ナル場合ニハ被保險者ノ死亡ニヨリテ終了ス。故ニ定期年金保險ノ場合ニハ、保險者ノ給付義務ノ繼續ヲ終了スル事件(給付義務ヲ消滅セシムル事件)ニ偶然性存在セザレドモ、終身年金保險ノ場合ニハ偶然性存在ス。

(三) 加入者ノ給付義務ハ保險料ヲ支拂フ義務ナリ。此義務ハ契約ニヨリテ、現實ニ且ツ即時ニ、生ズルモノニシテ、保險者ノ給付義務ノ如ク、保險事件ノ發生ニヨリテ、初メテ現實ニ生ズルモノニアラズ。故ニ加入者ノ給付義務ノ發生ハ偶然性ヲ有スル事件ト何等ノ關係ナシ。

(四) 加入者ノ給付即チ保險料ノ支拂方法ニハ、一回拂ト數回拂トアリ。一回拂保險料ノ保險ニアリテハ、加入者ハ全保險期間ニ對スル保險料ヲ、一時ニ全部支拂フガ故ニ、其給付義務ハ之ニヨリテ全ク消滅ス。然ルニ數回拂保險料ノ保險ニアリテハ、加入者ハ全保險期間ニ對スル保險料ヲ一保險料期間毎ニ數回ニ支拂フモノナリ。故ニ此保險ニアリテハ、加入者ノ給付義務ハ繼續的ノ性質ヲ有ス。而シテ保險料數回拂ノ方法ハ生命保險ニ於テ採用セラルルモノニシテ、生命保險ノ法律關係ニ於テハ被保險者(普通ノ生命保險ノ場合)又ハ、保險契約者(確定日拂生命保險ノ場合)ガ死亡セバ、其保險料期間以後ノ保險料ハ之ヲ支拂フコトヲ要セズト規定ス。故ニ此保險ノ場合ニ於テハ加入者ノ給付義務ノ繼續ヲ終了スル事件ニ偶然性存在ス。

右ニ述ブルガ如ク、保險ノ法律關係ニ於テハ、保險者又ハ加入者ノ權利義務ノ發生又ハ消滅ヲ決定スル事件ニ偶然性存在ス。而シテ、如何ナル事件ニ偶然性存在スルヤハ各保險ニ於テ異ルガ故ニ、各保險ニ就キテ觀察セザルベカラズ。今此觀察ニヨリ保險ヲ分類スレバ次ノ如シ。

(一) 保險事件ト、加入者ノ給付義務ノ繼續ヲ終了スル事件トガ同一ニシテ、且ツ之ニ偶然性ノ存在スル保險。(尋常年掛終身保險・尋常年掛混合保險等)

(二) 保險事件ニノミ偶然性存在スル保險。(保險料一時拂式財産保險・同疾病・災害保險・同終身保險・同生存保險・同

混合保險・同定期年金保險等)

(三) 保險事件ト保險者ノ給付義務ノ繼續ヲ終了スル事件トニ偶然性存在スル保險 (保險料一時拂式終身年金保險等)

(四) 保險事件ニ偶然性存在セス、加入者ノ給付義務ノ繼續ヲ終了スル事件ニノミ偶然性存在スル保險 (確定日拂生命保險等)

(五) 保險事件ト、加入者ノ給付義務ノ繼續ヲ終了スル事件トガ別物ニシテ、且ツ両者共ニ偶然性存在スル保險。(有限年掛生存保險、有限年掛終身保險、有限年掛混合保險、尋常年掛生存保險、掛年保險料式定期年金保險等)

(六) 保險事件・保險者ノ給付義務ノ繼續ヲ終了スル事件・及ビ加入者ノ給付義務ノ繼續ヲ終了スル事件ノ二者別物ニシテ、且ツ各ニ偶然性ノ存在スル保險 (年掛保險料式終身年金保險・同超壽年金保險 *die einseitige oder wechselseitige Ueberlebensrentenversicherung mit periodische Prämienzahlung* 等)

註 有限年掛生存保險・同終身保險・同混合保險ノ場合ニアリテハ、保險料ノ支拂年限確定セリト雖モ、此年限内ニ被保險者が死亡スルトキハ加入者ハ其保險期間以後ノ保險料ヲ支拂フコトヲ要セザルガ故ニ、此等ノ保險ニアリテモ、加入者ノ給付義務ノ繼續ヲ終了スル事件ニ偶然性アリ。而シテ有限年掛生存保險ノ場合ニ於テハ、保險事件ハ、被保險者が一定時日ニ生存スルコトニシテ、加入者ノ給付義務ノ繼續ヲ終了スル事件ハ、保險料支拂年限内ニ於ケル被保險者ノ死亡ナルガ故ニ、此二者ノ同一ニアラザルハ明ナリ。又有限年掛終身保險ノ場合ニ於テハ、保險事件ハ保險料支拂年限内ナルト其後タルトニ拘ハラズ、被保險者ノ死亡ニシテ、加入者ノ給付義務ヲ終了スル事件ハ、其年限内ニ於ケル被保險者ノ死亡ナルガ故ニ、此場合ニ於テモ、此二ケノ事件ハ同一ニアラザルナリ。有限年掛混合保險ノ場合ニ於テモ亦同ジ。

由是觀之、保險ノ法律關係ニ於テハ當事者雙方若シクハ一方ノ給付義務ノ發生又ハ消滅ヲ決定スル事件ニ偶然性存在スルナリ。

五 保險ノ經濟關係ノ要素ニ存在スル偶然性

保險者ト加入者トノ保險關係ハ一面ニ於テハ法律關係ニシテ他面ニ於テハ經濟關係ナリ。故ニ保險ノ法律關係ニ於ケル偶然性ハ、又經濟關係ニ顯ハレテ其偶然性トナル。法律關係ニ於テハ、保險者又ハ加入者ノ權利義務ノ發生消滅ニ影響ヲ及ボス事件ニ偶然性存在スルコトガ重要義ヲ有シ、經濟關係ニ於テハ、給付ト反對給付トノ價值關係ニ偶然性存在スルコトガ重要義ヲ有ス。保險者ノ給付ハ加入者ヨリ云ヘバ反對給付ニシテ、加入者ノ給付ハ保險者ヨリ云ヘバ反對給付ナリ。故ニ。孰レヨリ言ヲ立ツルモ畢竟同一ナルガ故ニ便宜上保險者ノ側ヨリ言ヲ立テ、保險者ノ給付ト反對給付トノ價值關係ヲ觀察スベシ。

保險者ノ給付ノ價值ト云フハ、一ノ保險關係ニ於テ、保險者ガ實際支拂フ保險金ノ保險關係開始當時ニ於ケル價值ニシテ、即チ將來支拂フベキ保險金ノ現價ナリ。反對給付ノ價值ト云フハ、一ノ保險關係ニ於テ、加入者ヨリ實際受取ルベキ保險料總額ノ保險關係開始當時ニ於ケル價值ニシテ、即チ保險料總額ノ現價ナリ。將來受授スル所ノ金額ガ一定シ、且ツ其受領ノ時日ガ確定セルトキハ、現在ノ利率ニヨリテ、其モノノ現在ニ於ケル價值即チ現價ヲ確定スルコトヲ得。之ニ反シ、將來受授スル所ノ金額ガ不定ナルトキハ、其現價ノ不確定ナルハ言フ迄モナク、譬へ、金額ノミガ一定スルモ之ヲ受授スルノ時日ガ不確定ナラバ、又其現價ハ不確定ナリ。今此觀點ヨリ、保險者ノ給付ノ價值ト反對給付ノ價值トノ關係ヲ觀察スルニ、保險事件即チ保險者ノ給付義務ヲ決定スル事件ニ偶然性存在スルトキ、又ハ此事件ト共ニ保險者ノ給付義務ノ繼續ヲ終了スル事件ニ偶然性存在スルトハ保險者ノ給付ノ價值ガ不確定トナル。加入者ノ給付義務ノ繼續ヲ終了スル事件ニ偶然

性存在スルトキハ、加入者ノ給付ノ價值ガ不確定トナル。然ルニ、保險關係ニ於テハ、保險事件又ハ加入者ノ給付義務ノ繼續ヲ終了スル事件ノ中少クトモ、其一方ニ必ズ偶然性ノ存在スルノミナラズ、保險事件ニ偶然性存在スルトキハ、更ニ其上ニ、保險者ノ給付義務ノ繼續ヲ終了スル事件ニ偶然性存在スルコトアルガ故ニ、保險ノ經濟關係ニ於テハ、保險者ノ給付又ハ反對給付ノ中少クトモ其一方ノ價值ハ必ズ不確定ナリ。之ヲ前ニ掲ゲタル六種ノ保險ニ付キテ説明スレバ、(一)、(五)及(六)ノ種類ニ屬スル保險ハ、給付ノ價值モ反對給付ノ價值モ共ニ不確定ナリ。(二)及(三)ノ種類ニ屬スル保險ハ、給付ノ價值ハ不確定ニシテ、反對給付ノ價值ハ確定的ナリ。(四)ノ種類ニ屬スル保險ハ給付ノ價值ハ確定的ニシテ、反對給付ノ價值ハ不確定ナリ^(註)。斯ノ如クナルガ故ニ、何種ノ保險ニアリテモ、給付ノ價值ト反對給付ノ價值トノ關係ガ不確定ナリ。即チ給付ト反對給付トノ價值關係ニ偶然性存在ス。此價值關係ノ偶然性ハ之ヲ保險者ヨリ見レバ、此保險關係ガ結局有利ニ終了スルヤ不利ニ終了スルヤノ偶然性ト見ルコトヲ得ベシ。故ニ此保險關係ガ或ハ不利ニ終了シ、保險者ノ損失ニ歸スルコトアルヤモ知レズト云フ點ヨリ見テ、此價值關係ノ偶然性ヲ危險ト云フ。保險ニハ、保險者ト一クノ加入者トノ經濟關係ニ於テ、此意味ノ危險ガ存在スルコトヲ一ノ特徴トナス^(註)。

註一 財産保險及ヒ疾病、災害保險等ニアリテハ、原則トシテ、一保險料期間ヲ以テ一保險期間トナシ、且ツ保險料ヲ前收スルガ故ニ、反對給付ノ價值ハ始メヨリ確定的ナレドモ、保險者ノ給付ノ價值ハ之ガ支拂ヲ決定スル保險事件ガ愈發生シタル曉ニアラサレバ確定セズ。次ニ、生命保險ニアリテモ、保險金ナ一時ニ支拂フモノハ其給付ノ量額確定シアレドモ、之ヲ年金トシテ支拂フモノハ、其額不確定ナリ、且ツ一時金ノ場合ニ於テモ、確定日拂生命保險ヲ除ク外ハ、之ヲ支拂フノ時日ガ不確定ナルガ故ニ、保險者ノ給付ノ價值ハヤハリ年金ノ場合ト同シク不確定ナリ。又是等ノ生命保險ノ保險料ガ一時拂ナルトキハ、反

對給付ノ價值初メヨリ、確定的ナレトモ羊掛ナルトキハ、加入者ノ給付義務ノ繼續ヲ終了スル事件ニ偶然性存スルガ故ニ其價值不確定ナリ。又確定日拂生命保險ニアリテハ、保險者ノ給付ノ價值ハ初メヨリ確定的ナレドモ、此保險ノ保險料ハ必ず羊掛ニシテ(一時拂ナルトキハ定期預金ト同一トナリ保險タルノ性質ヲ失フ)加入者ノ給付義務ノ繼續ヲ終了スル事件ニ偶然性アルガ故ニ、反對給付ノ價值ハ必ず偶然性ヲ有ス。

註一 曾テ危險分擔說(又ハ轉嫁說)ヲ論評スルニ當リ述ベタルガ如ク、保險ニ於テ用井ラレル危險ナル語ニハ、多樣ノ意義アリテ、誤解ヲ惹起シ易キモノナルガ、之ヲ本文ニ述ベタルガ如ク、保險者ノ側ヨリ見タル、一ノ保險關係ニ於ケル價值關係ノ偶然性ト解スルトキハ、彼ノ所謂保險者ハ危險ノ引受ヲナスモノナリト云フコトノ意義ヲ正當ニ諒解スルコトヲ得ルナリ。危險ナル語ヲ此ニ述ベタルガ如キ意義ニ用井タルモノニ、ふぶか、まわれす、ふゆるぜ、げふあと等アリ。

給付ト反對終付トノ價值關係ニ、偶然性ノ存在スルハ前述ノ如ク、保險者ノ給付義務ノ發生ヲ現實ニスル事件、保險者ノ給付義務ノ繼續ヲ終了スル事件、又ハ加入者ノ給付義務ノ繼續ヲ終了スル事件ニ、偶然性存在スルニ因ルナリ。故ニ是等ノ事件ガ、價值關係ニ偶然性ノ存在スル原因タル場合ニハ、價值關係ノ偶然性ヲ危險ト云フニ對シ、是等ノ事件ヲ危險事件 *Risikofall* ト云フ。¹⁴⁾

註 *Risikofall* ナル語ハ、ふゆるぜノ用井シモノナリ。彼ハ危險事件ヲ説明シテ、危險即チ價值關係ヲ決定スル事件ナリト云ハリ。ふぶかハ危險事件ト云ハズシテ、危險ヲ保險者ノ爲メニ不利益ニ決定スル事件 *der Fall welcher das Risiko in ungünstigen Sinne entscheidet* ト云ハリ。¹⁵⁾

吾人ガ本誌第二卷第二號ニ於テ、ふぶか及ヒふゆるぜノ說ニ對シテナシタル批評ノ中、危險事件及ヒ確定日拂生命保險ニ關スル部分ハ、其後ノ研究ノ結果、少シク修正セザルベカラザルヲ發見シタルガ故ニ、ふぶかノ說ニ對スル批評ノ第一、及ヒふゆるぜノ說ニ對スル批評ノ第三ハ、今日之ヲ取消ス。但シ其代リニ、ふぶか、ふゆるぜ共ニ、保險者ノ給付ト反對給付トノ價值關係ニ、偶然性ノ存在スルコトヲ説明シタルニ拘ハラズ、保險事件ニ偶然性存在セザル場合ニハ、必ず加入者ノ給付義務ノ繼續ヲ終了スル事件ニ偶然性存在スルコトヲ説明セザリシハ、一ノ缺點トシテ舉示スルコトヲ得メシ。

11) Hupka, 前掲書, S. 581 ff. 12) Hupka, 前掲書, S. 586. 13) Gephart, Principles of Insurance, (New York 1911) P. 38. 14) Hülse, 前掲書, S. 204. 15) Hupka, 前掲書, S. 586.

吾人ハ曩ニ、保險ニ於ケル釀出ノ量額ハ、欲望事件ノ發生程度ニ從ツテ算出セララルモノナルカノ如ク説明セリ¹⁶⁾。然レトモ、之ハ保險ノ性質ヲ容易ニ諒解スルコトヲ得ンガ爲メニナセシ、豫備的説明ニシテ、正確ニ言ヘバ、保險料ハ此ニ述ベシ危險事件發生ノ蓋然率ニ從ツテ算定セララルモノナリ。詳言スレバ、保險ニ於テハ、一ノ保險關係ニ於ケル給付ノ價值ト反對給付ノ價值トノ間ニ存在スル偶然性ヲ不特定多數ノ保險關係ニ於テ排除スル方針ニヨリテ、保險料率ヲ先ツ算定シ、此ノ率ニ從テ具體的ノ場合ニ於ケル保險料額ヲ算出スルモノニシテ、而シテ保險料率ノ算定ニ當リ計算ノ基礎トナルモノハ、危險事件ノ發生蓋然率ナリ、價值關係ノ偶然性即チ危險ノ原因タル事件ノ發生蓋然率ナリ。

保險料率算定ノ上ヨリ觀察スレバ、保險事件ト保險者ノ給付義務ノ繼續ヲ終了スル事件トガ歸一シテ一個ノ危險事件トナルコトアリ、又保險事件ト加入者ノ給付義務ノ繼續ヲ終了スル事件トガ歸一シテ一個ノ危險事件トナルコトアリ。此ノ點ヨリ見レバ、一ノ保險關係ニ於テハ、危險事件ガ一個存在スルコトアリ、二個存在スルコトアリ、將々、三個存在スルコトアリ。保險料率ハ價值關係ニ偶然性ヲ與フル總テノ事件ヲ考慮シテ算定セラルルモノナルガ故ニ、此危險事件ガ多キ程、其計算複雑トナル。之ヲ前ニ掲ゲシ保險ノ種類ニ付イテ、説明スレバ、(一)(二)(三)(四)ノ種類ニ屬スル保險ニ於テハ、危險事件ヲ一個トシテ、計算ヲ立ツベク、(五)(六)ノ種類ニ屬スル保險ニ於テハ危險事件ヲ二個トシテ、計算ヲ立ツベク、而シテ(六)ノ種類ニ屬スルモノノ中、年掛保險料式超壽年金保險ニシテ複合式ノモノ (wechselseitige) ニアリテハ危險事件ヲ三個考慮ニ容レザルベカラ

16) 本誌本號八五、八六頁

ズ。但シ保險料率ノ算定ニ關シテ詳細ノ論ヲナスハ、本篇ノ目的ニアラザルガ故ニ、其詳論ハ後日ニ譲リ、此ニハ只單ニ保險料率算定ト危險事件トノ關係ヲ述ブルヲ以テ足ル。

*

*

*

*

*

*

之ヲ要スルニ保險ト偶然性トノ關係ヲ觀察スルニ付キテハ、保險ノ成立上ノ要素ニ存在スル偶然性ト、保險關係ノ要素ニ存在スル偶然性トヲ區別スルコトヲ要シ、保險關係ニ於テハ、又之ヲ法律關係ト經濟關係トニ分テテ觀察スルコトヲ要ス。而シテ、欲望事件・保險事件及ヒ危險事件ノ三者ハ具體的ニハ同一物ニ歸着スルコトアリ又相異ルコトアリト雖モ、觀念上ニ於テハ明ニ之ヲ辨別セザルベカラズ。